

## 自然の恵みを次へつなげる 食べ物のリサイクル

皆さん、食品もリサイクルできるつてご存じですか？

スーパーやコンビニ、飲食店などから排出される食品廃棄物(調理くず、売れ残り、食べ残しなど)を利用して、たいやくや飼料を作り、それらを使用して生産された野菜・果物や精肉を再び小売店や飲食店で取り扱う食品リサイクル、愛称は「めぐりふーど」。環境省中部地方環境事務所がその仕組みづくりに取り組んでいます。

現在、世界中で廃棄される食べ物の量は約13億㌧。日本だけでも年間1900万㌧の食糧廃棄があります。なのに、世界の飢餓人口は9億2500万人(国際連合食糧農業機関発表)。この恐ろしい数字から目を背けてはなりません。贅沢な飽食の影で、飢餓で命を落としている地域があるので。世界の不平等をなくし、食べ物が行き渡る

ためにも、私たちにできることは、食べ残すこと、作りすぎないこと。それでも出てしまう調理くずや店での売れ残り、食べ残し。これを何とかしようというのが食品リサイクルです。命をつなぐ自然の恵み、食べ物を最大限に生かし、循環させ、再び食卓の彩りにできたなら…。

そんな循環型社会のお手本となるのが北欧です。スウェーデンやフィンランド、デンマークには世界の環境認証「グリーン・キー認証」のあるホテルがたくさんあります。地球環境に配慮し、持続可能な循環型のホテルではごみがほとん

ど出ません。レストランで出る残り物をたいやくや飼料にした食材は再びレストランに戻り、オーガニック料理となります。石けんやシャンプーは天然成分で川を汚さず自然に還る物、歯ブラシなどは持参。壁やカーテンは天然素材、アレルギーフリーの床にカーペットは使わず天然木材を使用。自然エネルギーの自家発電で節電、節水の工夫を。フェアトレードのコーヒーも飲みます。モラルあるエコホテルで過ごす、心身ともに健全な心地良い時間。

これらは日本古来の「おもてなし精神」にも通じると感じます。自然を生かした環境に地域の旬の食材を使ったお料理で、過剰な贅沢は慎み、配慮を持って尽くす。本来私たち日本人も持っている心

だと確信しています。謙虚に暮らし、自然の声に耳を傾け、物を大切に次へ受け継ぐ…。「めぐりふーど」も、その一助になるはず。今後が楽しみです。未来の食卓と一緒に考えましょう。

### お知らせ 「環境デーなごや2011」

9月18日(日)13:00~14:00(予定)久屋広場特設ステージにて原田さとみ「めぐりふーど」トーク／フェアトレード＆エシカル・ファッショショーン開催。会場内「生物多様性横丁」にて「エシカル・ベネロープ」(原田さとみ企画のお店)も出店します。ぜひお越しくださいね。

**プロフィル**  
はらださとみ  
(タレント／エシカル・コーディネーター／フェアトレードタウンなごや推進委員会 世話人)  
フェアトレード＆エシカル商品の輸入販売「エシカル・ベネロープ」代表。国際協力機構JICA中部なごや地球ひろばオフィシャル・サポートー、親子向けの絵本読み聞かせ「ルブブ」主宰など幅広く活躍中！ エシカル・ファッショーン＆フェアトレードのセレクトショップ「エシカル・ベネロープ」をテレビ塔1階にオープン。  
<http://satomiharada.com>



コペンハーゲンの「グリーン・キー認証」ホテルで、食品リサイクルされたオーガニックな朝食

